

◆NPO法人TSC

http://www.tsc-presents.jp/
 設立=2006年4月(NPO認証2008年7月)
 種目=野球、バレーボール、サッカー、たいいくの学校、健康スポーツ教室
 会員数=個人332人、22団体(2011年8月31日現在)
 会費=入会金7,000円(その他種目ごとに月・年会費)
 指導報酬=常勤マネジャー19万円、学生アルバイト時給850円
 事務局=滋賀県高島市今津町岸脇280-2
 TEL=0740-22-9090
 公認指導者数=4人



助成金には頼らない
 設立から6年。会員数は330人を数え、年間予算も2千万円を超える。順調に見えるクラブづくりだが、その道のりは決して平坦ではなかったようだ。クラブ設立にあたり全国さまざまな事例を目的の当たりにした北川さんは、助成金に一切頼らないという思い切った方針を定めた。

「今でこそ月19万の月給をもらえるようになりましたが、当初はわずか5万円。北川と事務所を兼ねたところに住みながら活動していました」と振り返る。

また月に4,000円を超える会費についても、最初は他団体との軋轢が少なくなかったそうだ。「ほとんどボランティアで活動してきた人から見れば面白くなかったでしょう。でも、たとえばバレーボールは、大学の教授をつとめていた吉田敏明先生(編注:元アメリカ女子代表監督)に協力していただいて作ったものだし、日体協の公認資格を持った

コーチが現場で指導にあたります。僕らはその価値に見合う価格でプログラムを提供しているという自負がありました。中学の部活動や少年団などへ足を運んでクラブの意義を説明し、時には無償の体験教室などを行いながら、徐々に理解を得ていきました(北川さん)

TSCの「若さ」は「幼さ」とは無縁。むしろ「スポーツを教えるプロフェッショナル」とはどういうことか、常に自分に言い聞かせています」と厳しささえのぞかせる、「自立した」クラブである。

sj



活気あふれるTSCのクラブハウス(右から北川渉マネジャー、荒木陽平さん、松井まどかさん、山元洋平さん)

スポーツを教える“プロ”として

NPO法人TSC(滋賀県高島市)

公認アシスタントマネジャー 北川 渉さん(26)

琵琶湖の湖西側、京都と福井が接するあたりに位置する滋賀県高島市。NPO法人TSC(高島スポーツクラブの略)は人口約5万人の町を拠点として2005年に設立された、「若い」クラブだ。

「若い」とは、設立年数のことだけではない。26歳の北川渉クラブマネジャーを筆頭に、運営および指導スタッフのほとんどが20歳代半ば。指導のアシスタント役も北川さんの母校である「びわこ成蹊スポーツ大学」の現役学生が手伝うなど、TSCは全国でも指折りの若さを誇るクラブだ。

大学3年で立ち上げ

北川さんがクラブ設立を思い立ったのは、大学2年生の時。スポーツマネジメントを学ぶなかで総合型クラブの運営に興味を持ち、気の合う仲間と協力しながら、翌年には活動をスタートさせた。起業意識がもともと高かったことに加え、所属していた大学野球

部での体験がクラブ設立へと向かわせるキッカケになった、と語る北川さん。

「入部してまもなく、元プロ野球選手の指導を受ける機会がありました。高校までのものとは全くレベルが異なる指導法や技術理論に、「野球ってこういうものだったのか」と。同時に、地元のジュニア年代にも野球というスポーツの本来の魅力や奥深さを教えてあげたいと思うようになったんです」

TSCは、指導体制が整った硬式野球とバレーボールの2種目から活動をスタート。既存の団体との関係にも配慮してアカデミー形式をとり、「学習塾のように、もっと上手になりたい子、苦手を克服したい子が、集まれるように工夫しました(北川さん)。現在ではサッカーのほか、2カ月ごとに種目を変える「たいいくの学校」、一般成人向けの「健康スポーツ教室」と、活動は多彩になりつつある。

